佐久で塩川高敏回顧展を開催（9 月 13 日から）

上原 昇（65 期）

65 期の洋画家、塩川高敏君（佐久市出身、東京藝大卒）が亡くなったのは 2017 年 11 月のことでした。その年の 5 月には所属していた国画会の国展（国立新美術館）に、8 月には日本橋髙島屋でのグループ「個の地平」展に出品と活躍中での急逝は何とも残念でした。

塩川君は 2000 年から亡くなるまでの 17 年間、尾道市立大学に在籍して、2011 年からは副学長の要職を務めています。

このたび、佐久市立近代美術館（佐久市猿久保、駒場公園内）で、「佐久地域ゆかりの作家 塩川高敏展」が開催されることが決定しました。

故郷に錦を飾る形となった催しを、天国の塩川君も喜んでいることでしょう。開催期間は、9 月 13 日（土）から 11 月 3 日（月・祝）までです。同企画展では塩川君の小学校時代から晩年にいたるまで、作品約 80 点が展示されるとのことです。本展の企画を担当したのは、同館学芸員の由井はる奈さんです。昨秋、由井さんから 65 期ＨＰを通じ、管理者の原田義則君に協力要請があり、高校時代に塩川君と美術班で一緒だった澤崎健一君をはじめ、関係者が由井さんの取材を受けていました。

そこで、以下は原田君と澤崎君のコメントです。

原田 「昨年 10 月に、突然、65 期 HP の『問い合わせ』欄経由で、佐久市立近代美術館の由井学芸員から『塩川氏の回顧展を企画しているので、高校時代の様子や思い出などを取材させていただける同級生や友人を紹介して欲しい』との連絡がありました。上原君経由で澤崎君につなげ、ヒアリングに至りました。塩川君の奥様が上田高校の同期生との交流があったことを思い出してくれ、由井さんが検索した結果、65 期 HP にたどりついたようで、情報公開の有用性を再確認しました。私は塩川君が亡くなる直前に開催された日本橋髙島屋のグループ「個の地平」展で彼と会話し、数作品を鑑賞したのですが、今度はまとめて彼の作品を観られるようなので楽しみです。」

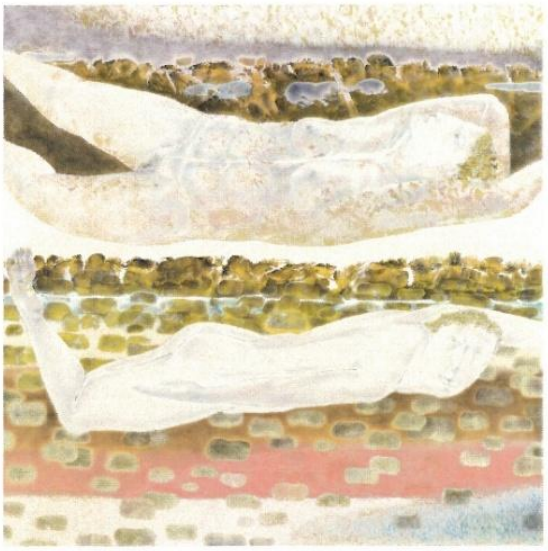
澤崎 「私が電話取材を受けたのは昨年 11 月、塩川君との出会いから美術班時代を中心に話しました。この時、大いに役立ったのが、旧校舎の美術教室／松尾祭での美術班の展示・集合写真／卒業写真などを収録した 65 期 HP 内のアルバムです。お互いに PC 画面を見ながらのやりとりは、由井さんをすっかり上田高校ファンにするほどの盛り上がりで、１時間半にもおよぶ電話となりました。塩川君の高校時代の制作環境や美術班の仲間たちなど、当時の模様がリアルに伝わり、彼女も良い取材ができたと喜んでいました。今回の回顧展で、この時代がどういうカタチで展示されるか・・・私も楽しみにしています。“永遠の絵画少年” 塩川高敏展、みんなで観に行きましょう‼」

展覧会は、まだ半年先のことですが、折角の機会ですから、鑑賞会を企画して、同期有志で同展を観に行きたいと思います。

同窓生の皆さんも、是非足をお運びください。

塩川　高敏

（写真は 2011 年 1 月開催の「KAOS 展」パンフより）



塩川高敏　浮游－'17　162×324cm

第91回　国展(2017)

以上